

報告

令和元年度の「第 3 次大阪市子ども読書活動推進計画」の進捗状況、および、各取組みの実施結果について

1. 令和元年度の「第 3 次大阪市子ども読書活動推進計画」の進捗状況について

実績値を資料 1- i、1 - ii にまとめていますのでご覧ください。

令和元年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校の休校や市立図書館を始めとする施設の休業がありました。(参考資料参照)

資料 1- i の指標①および②、⑦の全国学力学習調査の回答割合については、数値は改善傾向にあるものの、目標の全国平均に届かない状況が続いています。

指標⑧については、休校等の期間中を除き、数値の補正をした値を []内に記載しております。実績値は減少しましたが、補正值ではほぼ目標通りでした。

その他の項目では、10 代の世代の利用にかかる項目で、⑩の 13 歳から 19 歳までの市立図書館登録者数が減少しています。一方⑪のティーンズのページアクセス件数は増加しています。

2. 各取組みの実施結果について

資料 2 から資料 5 に各取組みの実施結果をまとめています。こちらについても、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とした取組みがありました。

新型コロナウイルス関係経過

<国・大阪府の動き>

2月19日 当面1か月間 府主催のイベントや集会の原則中止、延期決定

2月29日 不特定多数の利用する府有施設の原則閉館方針決定

4月7日 (国)改正新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出

- 外出自粛要請
- イベント等の開催自粛要請

4月14日 施設の使用制限の要請等決定

5月14日 5月16日以降の府における緊急事態措置の部分的解除について決定

5月21日 (国)大阪府に対しての緊急事態宣言が解除

同日 大阪府新型コロナウイルス感染症対策本部会議

- 府主催イベント等 定員2分の1(屋内100人以下、屋外200人以下)再開
- クラスタが発生した施設以外の府有施設について、感染防止対策等の準備が整い次第5月23日以降開館

5月28日 大阪府新型コロナウイルス感染症対策本部会議

- 府主催(共催)イベント 人数制限の段階的緩和(-7/9 1,000人、7/10~5,000人)
- 全ての府有施設について、準備が整い次第開館

<大阪市の学校、施設等>

- ◇ 大阪市立図書館:3月2日から5月15日まで臨時休館
- ◇ 幼稚園・小学校・中学校:2月29日から5月31日まで休業(3月25日から4月7日は春季休業)
- ◇ 高等学校:3月2日から令和2年5月31日まで休業(3月16日から4月7日は春季休業)
- ◇ 区役所附設会館:4月14日から5月15日まで臨時休館
- ◇ 地域子育て支援拠点事業(親子等交流事業、講座やイベント、ブックスタート事業ほか):2月29日から一部休止(相談事業のみ継続)、6月1日からブックスタート等一部再開、7月1日から講座およびイベント順次再開

議題 1 令和 2 年度の「第 3 次大阪市子ども読書活動推進計画」の取組みについて

・ 新型コロナウイルス感染症について

参考資料の通り、令和 2 年度は施設の休館や学校の休業があり、多数の取組みが中止または延期となりました。現在もイベントなどでの感染症対策を行っています。このため、一部の取組みについて再開が困難な状況にあります。

・ 区の子どもの読書活動推進連絡会について

各区の子どもの読書活動推進連絡会は、今年度は書面形式での開催とせざるを得ませんでした。各区の施設・団体の令和元年度活動状況報告や、相談事項などを事務局で聞き取り集約し、図書館からの報告を合わせて共有することとしました。各区の連絡会報告をまとめたものを、資料 6 に掲載しています。

各施設・団体、地域を通じて共通する課題として、新型コロナウイルス感染症対策で活動への制約がある中での、それぞれの取組みへの工夫があがりました。各現場での感染症対策や工夫については、連絡会報告を通じて各区の構成員に共有しています。

・ 令和 2 年度の取組みについて

令和 2 年度の残りの期間は、「第 3 次大阪市子ども読書活動推進計画」の目標を念頭にしつつ、一方で、感染状況による感染症対策に十分配慮し、可能な取組みを実施することとします。オンラインイベントや、動画発信、電子書籍の PR など、状況に合わせて工夫した新たな取組みも検討、実施することとします。

議題 2 「第 3 次大阪市子ども読書活動推進計画」の 1 年延長について

平成 30(2018)年 3 月に「第 3 次大阪市子ども読書活動推進計画」(以降、現計画)を策定いたしました。計画期間については、当計画が基本とし、指標を共有する「大阪市教育振興基本計画」との整合を図るため、「教育振興基本計画」と同様に、今年度の令和 2(2020)年度までとしています。

現計画については、今年度中に新計画を策定し、令和 3 年度から「第 4 次大阪市子ども読書活動推進計画」(以降、新計画)を実施する予定でしたが、次の理由から、1 年延長したいと考えております。

- ① 「大阪市教育振興基本計画」が 1 年延長の予定であるため
- ② 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、最重要目標で評価に活用する「全国学力・学習状況調査」の今年度の中止により、取組成果が測定できず、計画全体の評価や検証が困難なため

なお、延長にあたっては、現計画の基本方針や施策体系を継承しつつ、関連計画等との整合性、新型コロナウイルス感染症対策のもとでの事業のあり方等を踏まえ、変更を要するものは現時点の状況に合わせて最低限の修正を行います。今年度中に教育委員会会議での承認を経たうえで、公表する予定です。

現計画の延長にかかる具体的な修正については、第 4 次大阪市子ども読書活動推進計画策定委員会(以降策定委員会)において検討します。今年度中は現計画の延長にあたっての修正、来年度は新計画の原案作成についての検討を行います。

今回いただくご意見は、策定委員会での検討において参考にさせていただきたいと考えています。

— ご意見、感想、助言など —

1. 報告

令和元年度の「第3次大阪市子ども読書活動推進計画」の進捗状況、および、各取組みの実施結果について

【学識経験者より】

久 隆浩(近畿大学教授)

取り組みはしっかりと進められているが、目標である子どもの読書活動の推進の成果に結びついていない。子どもの姿勢を変え行動変容させるのはむずかしいが、全市として分析するだけでなく、学校や地域で成果が上がっているところを精査し、何が成功要因になっているのかを解明することで、どのようにすれば成果につながるかが具体的に見えてくるだろう。

村岡益子(全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー)

- ・ 目標・指標の進捗状況

「不読率」は子どもの読書活動推進の根幹である。「全国平均を上回る」を目標値として継続すべき。また、「学校図書館や地域図書館を利用しない児童・生徒の割合」も注視すべき目標である。目標達成できないのは図書館の良さを知る機会が与えられていないことが原因では。

- ・ 具体的取組の進捗状況

読書活動の質向上のため、ボランティアステップアップ講座の継続を。

- ・ 学校図書館活用推進事業

司書教諭スキルアップ講習(新聞の活用や著作権について、おためし読書等)は有意義な講習内容だ。おためし読書は特に中高生に有効だ。

- ・ 区における読書活動の取組み

北区「子どもたちと考える平和展」は貴重な取組みだ。他区にも広がってほしい。平野区「ひらちゃん読書ノート」は読書習慣の醸成に役立つ期待できる取組みだ。

【社会教育団体、各区連絡会代表】

子どもの読書活動全般について

- ・ 学年が進むにつれて読書離れが進んでいることを自分の子どもを見て感じる。
- ・ 読書に親しむ機会を増やすことで、読書好きな子どもを増やすことができる。

推進計画の進捗状況、および、各取組みの実施結果について

報告全般

- ・ それぞれの団体に創意工夫され、いろいろな取組みがなされている。相対的に少しずつではあるが数値においては上がってきているのが見て取れる。さらに各団体に連携を図り、また取組みごとの団体同士の細やかな情報交換等もすると、尚活発になるのではないか。
- ・ コロナ禍の中、いろいろな工夫をして取り組んでいる状況がよくわかる。
- ・ 各取組の実施の幅広さや奥行きが以前に比べて向上している。
- ・ 実績値が前年比で良くなっていることは評価できる。読書が好きだと答える子が確実に増えている。小学校でボランティア活動をしていて子どもたちの以前との変化を感じる。

個別目標・指標

- ・ 市立図書館の児童書貸出冊数が補正で目標値に達していることは意義深い。幼児・児童は学校、保護者の力である程度本に向かわせることができている。
- ・ ティーンズのページのアクセス数が増加しているのは、今の子どもたちのスマホの普及率を表していると考えられる。読書の量とどうバランスを取るかが難しいところ。
- ・ 読書活動支援ボランティア数が年々増えているのは良いことだ。

区における取組み

- ・ 各区内で創意ある取組みがされている。
- ・ それぞれのカラーが出ている。

学校での取組み

- ・ 学校図書館補助員が、子どもたちが興味を持つよう図書館のレイアウトを工夫している。
- ・ 高学年の子どもが図書委員会で紹介文を考えることが本を読む機会となった。

図書館の取組み

- ・ としょかんポイントや読書貯金手帳の活用な

どをもっと学校と連携して進めてほしい。

- ・ 読み聞かせの動画の活用も良い取り組みだ。
- ・ 図書館での職業訓練も子どもの読書推進の機会だ。

コロナ禍での読書活動

- ・ これまでと違う人智でいろいろな苦勞を乗り越えたい。
- ・ 発達に心配のある子どものためのイベントが中止になり、残念だった。
- ・ 事前予約しておはなし会に参加される親子に、励まされる思いがした。
- ・ 図書館と連携してボランティアグループで小学校に「置き本」をした。
- ・ (図書館に)イベント実施のガイドラインができたことで、ボランティアが自身の活動を判断する手掛かりにできている。
- ・ 活動制限中、LINE グループで各自の研究成果を知らせたり、ビデオ通話で情報交換したり、新たな展開もあった。
- ・ 緊急事態宣言が出ている間、図書館での本の貸出だけでもしてほしかった。

そのほか、新型コロナウイルス感染拡大の影響による活動制限等の状況について、多数報告いただきました。

2. 議題 1

令和2年度の「第3次大阪市子ども読書活動推進計画」の取組みについて

【学識経験者より】

久 隆浩

コロナ禍における子どもの読書活動について、試行錯誤の結果、大学でも電子書籍の充実や資料データベースの学外アクセス、図書館入館の予約制など対応策が見えてきた。全国の事例を収集しながら大阪市にあった対応策を模索してほしい。

村岡益子

- ・ 「各区子どもの読書活動推進連絡会のまとめ」で報告された区役所の待合スペースへの「今月の絵本」設置、大阪市4歳児訪問事業における絵本配布などの取組みは、子どもの読書活動推進にとって効果的と考える。
- ・ 学校図書館補助員について、職務内容を踏

まえつつ活躍の場を広げていってほしい。

- ・ 子育て支援施設職員へ、絵本や読書についての研修機会を充実してほしい。

【社会教育団体、各区連絡会代表】

子どもの読書活動全般について

- ・ ブックスタートが若い親世代が絵本やわらべうたへ興味を持つきっかけになっている。
- ・ 家庭によって読み聞かせなどの差が表れる時期に、子どもの読書活動を、どう浸透・定着させるかが課題。
- ・ ブックスタートは読書への第一歩だが、自宅へ絵本を配布するのも良い取り組みだ。
- ・ 保護者も本を読む家庭環境を作ることを目指して、保護者、子どもそれぞれに向けて本を手にとってもらえるようなワークショップ形式の催しをしたらよい。
- ・ 建替えされていない地域図書館の読書環境の充実を。
- ・ 読書通帳作成の取組みは有効だと考える。広く展開してほしい。
- ・ いきいき活動で子どもたちが本に触れる機会が増えるような取組みができないか。

コロナ禍への対応策について

読み聞かせの動画配信や電子書籍などオンラインイベント、デジタル活用について

- ・ 動画配信はとても良かった。多様なものを企画してほしい。
- ・ デジタルの活用も効果的だが、活字読書離れが懸念される。
- ・ 読み聞かせは肉声・対面であるのが第一、オンラインイベント等はコロナ禍のつなぎとしてほしい。
- ・ 成長につれて読書ばなれが進みがちなので、電子書籍や動画などが絵本や本への関心のきっかけになれば良い。

コロナ禍での読書活動について

- ・ 感染症対策を十分した上で、可能な取組みを実施していきたい。
- ・ 体調管理、マスク着用、マイク使用など、どのような形ならおはなし会が実施可能か、様々な面で考えていく。

おはなし会等休止中にできること

- ・ 今年度様々な活動が中止となったことは残念だが、コロナ終息後に向けての充電期間に

なればよい。

- ・ ボランティア定例会を、育成や研究の場としてゆるやかに継続する。

情報交換について

- ・ ボランティア同士、悩みやアイデアを共有して良い解決策を考えていけたらよい。
- ・ 区連絡会に加え、現場や地域単位でも情報交換ができると更によい。

3. 議題 2

「第 3 次大阪市子ども読書活動推進計画」の 1 年延長について

【学識経験者より】

久 隆浩

推進計画の延長はやむを得ない。コロナ禍を契機として新たな方策を検討してほしい。ネットやデジタルの活用など新たな活動の展開を考えていく必要がある。

村岡益子

- ・ 推進計画は一定の成果を得られたと考える。
- ・ 1 年延長はやむを得ない。
- ・ 以下の取組みについてさらなる充実を期待する。
 - 中高生を対象とした新しい取組み
 - 「区の子どもの読書活動推進連絡会」活動のアイデア等の情報交換のため、年 2 回の開催ができないか。
 - 中央図書館の案内動画
 - 中学校の図書委員(1 年生)対象の中央図書館見学会(夏季休業中)。
- ・ 子どもたちの生活環境や学び方等が大きく変化していくであろうことが予測される中、「不易流行」を念頭により良い計画を策定してほしい。

【社会教育団体、各区連絡会代表】

推進計画の 1 年延長について

1 年延長は妥当またはやむを得ないとの意見が多数。

これからの子どもの読書活動推進計画について

推進計画全般

- ・ 「横のつながり」を出来る形で増やす。連携、

共有を行うことで課題を解決する。

- ・ 1 年延長が次のステップへの準備につながればよい。
- ・ 子どもたちにとって必要なものは何か？どうすれば読書に向き合えるのかを取り上げる計画を立ててほしい。読書した本の数ではなく、子どもたちの心に届いた本を次の子どもたちに伝える工夫がほしい。

新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた計画のあり方

- ・ コロナ禍で子どもたちの経験が奪われることがないように、配慮した活動をしてほしい。
- ・ コロナ禍ですべてが止まり、子どもたちの学力低下にも繋がらないか懸念される。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた上での取組が不可欠。立案にあたり子どもや保護者など対象者も関与するのの一考である。
- ・ 新型コロナウイルスの影響を見据え、オンライン読み聞かせイベント等需要に応える必要がある。
- ・ 連絡会等へもオンライン開催の検討が進められると考える。自宅滞在が増え読書への関心が深められる契機とも考える。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた新しい取組みを検討するなら、活動再開時、少人数対象の行事は効果的で参加者の満足度も高かったため、取り入れてほしい。
- ・ コロナ禍での活動についてメンバーの考え方が様々だ。全員で考え話し合いながら子どもたちへ絵本を届けたい。
- ・ 子どもも不安なことが多い中、読書によって少しでも穏やかに過ごせればと願う。

個別の取組み提案

- ・ 子どもによる子どもへの読み聞かせ。とりわけ中高生が低年齢の子に読み聞かせを実施するのが効果的。
- ・ 学校図書館をもっと地域の方に開放してもらいたい。
- ・ 男性保護者と子が一緒に読書を楽しめる企画があったらよいと思う。
- ・ 赤ちゃん期から保護者と一緒に本に触れるアプリを考えたい。
- ・ 外国籍児童が増えており、母国語の絵本の充実も希望する。